様式第５－１号（第７条関係）

論　文　内　容　の　要　旨

氏　　名	木下　正一
Potential role of surgical resection for pancreatic cancer in the very elderly （和　訳） 80 歳以上の高齢者膵癌に対する膵切除の意義	

論文内容の要旨

【背景】膵癌患者は年々増加傾向にあり，なかでも高齢者の割合が顕著となっている．しかし，高齢者は多くの大規模臨床試験から除外されているため，既存のエビデンスを用いた癌治療戦略が，身体機能が低下した高齢者においても同様に有効かどうかは不明である．さらに，膵癌に対する膵切除は高難度で侵襲も大きいため，高齢者が手術治療の恩恵を被るかどうかはまだよく知られていない．

今回，80 歳以上の超高齢者膵癌患者における手術および化学療法の治療成績を後方視的に評価し，超高齢者膵癌における膵切除の意義について検討した．

【対象/方法】対象は 2005 年から 2012 年の間，膵癌治療を施行した 80 歳以上高齢者 46 例(膵切除 26 例，化学療法 20 例)．臨床病理学的因子，周術期成績，化学療法実施状況，治療開始後生存を評価し，予後因子を解析した．また，同期間に膵癌治療を施行した 80 歳未満患者 647 例と比較した(膵切除 314 例，化学療法 333 例)．

【結果】高齢者における膵切除後の Clavien-Dindo grade3 以上の重度合併症は 2 例のみで，術死は認めなかった．膵切除後の予後は高齢者が若齢者より有意に不良だった(12.4M vs. 27.1M, P < 0.001)．さらに，高齢者において膵切除後と化学療法実施後で予後に差を認めず(12.7M vs. 11.7M, P = 0.263)，若齢者の化学療法後(11.2M)と同程度だった．高齢者全例での予後因子多変量解析では BMI(HR 2.53, 95%CI 1.244-5.176)と遠隔転移(HR 3.33, 95%CI 0.895-4.874)が独立した予後因子だったが，膵切除は予後因子ではなかった．膵切除した 26 例の高齢者での予後因子多変量解析では遠隔転移(HR 3.20, 95%CI 1.005-10.22)と術後補助療法完遂(HR 4.078, 95%CI 1.162-14.30)が独立した予後因子で，補助療法完遂できた 6 例の生存中央値は 23.4M と比較的予後良好だった．補助療法完遂と関連する臨床病理学的因子に統計学的有意なものはなかったが，完遂例では BMI や PNI が高く，また，術後合併症が少なく在院日数が短かったことは注目に値する．

【結語】80 歳以上の超高齢者膵癌において，膵切除は安全に施行可能であるものの，化学療法より明らかな予後改善効果は示されなかった．技術的に切除可能な膵癌であったとしても膵切除の恩恵を被るには，術後補助療法を含めた治療に耐えうる身体機能が保たれていることが必要と示唆された．